

## I. 取組「学問・世界・仕事へのリンクが育む就業力：専門教育と就業力をつなげるカリキュラムならびに個別学習マップの構築」の概要

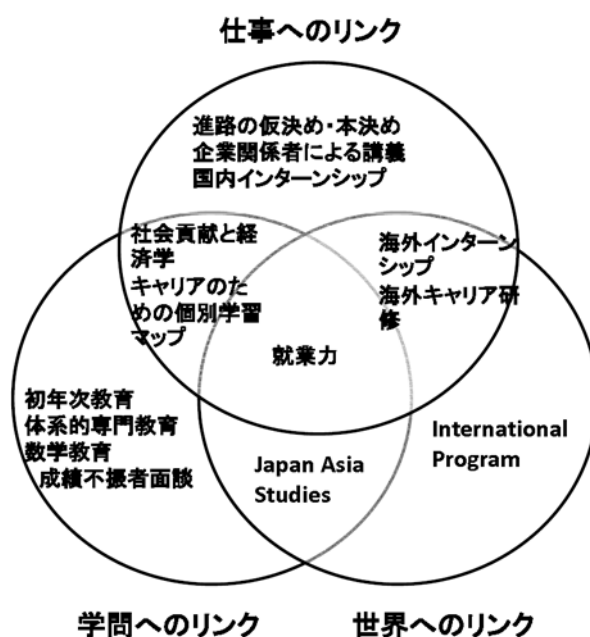
### I-1. 取組の概要と目的

創価大学は、幅広い職業人の養成をめざし、キャリアセンターを中心に2006年度より共通科目としてキャリア教育科目を提供してきた。今後は、キャリアセンターと各学部が連携して、本格的に就業力育成に力を入れていく。なかでも経済学部は先駆的に学部教育改革を進め、2007年度の特徴GPに採択されている。本取組では、2010年度および2011年度に経済学部をパイロットケースとして、学部教育と連動するキャリア教育を行ってきた。この取組は、2012年度より全学に展開されていく予定である。

図表 I-1-1 (1)

#### I-1-1 (1) 経済学部が就業力育成のために取り組む3つのリンク

創価大学経済学部は、学部教育目標として「問題発見・解決能力と論理的思考力」および「グローバル社会で役立つコミュニケーション力」を掲げている。この教育目標に基づいた学部専門教育と就業力の育成を結びつけるために、以下の取組を構想した。(1) 「体系的な経済学教育を通して」学生を学問にリンクさせる。(2) 「英語による経済学教育」を通して学生を世界にリンクさせる。(3) 明確な職業意識を育てるために学生を仕事にリンクさせる。



#### I-1-1 (2) 取組の内容

就業力の育成には、科目群の配置変更だけでは十分と言えず、学習者の視点に立った教育課程の工夫が不可欠と考える。そのために、以下の取組を実施してきた。

取組①：企業関係者の協力を得て大学教育と卒業後のキャリアの関係を明確にする科目として、2011年度より「社会貢献と経済学」（1年次後期、「経済特論I」）を新設した。

取組②：1年次末の「就業力測定テスト」を実施した。また2年次の「進路の仮決め」

と「希望進路調査」を2012年度より導入する準備をした。

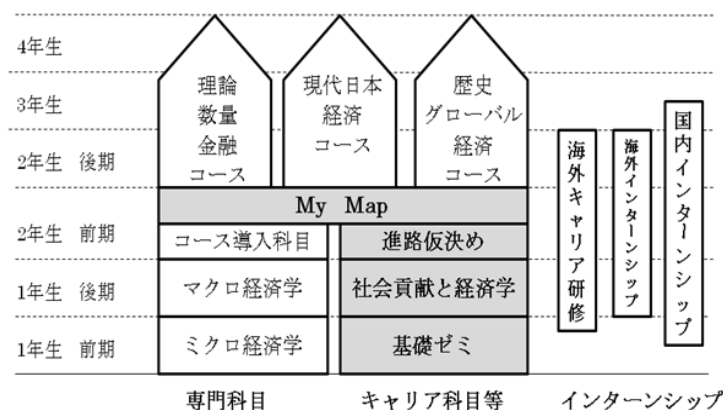
取組③：「キャリアのための個別学習マップ (My Map)」の開発を行った

取組④：海外キャリア研修の実施および国内・海外インターンシップの拡充を行った

これによって、本学部の学生は、就業力育成のために、入学時以降に以下のような教育を受ける。

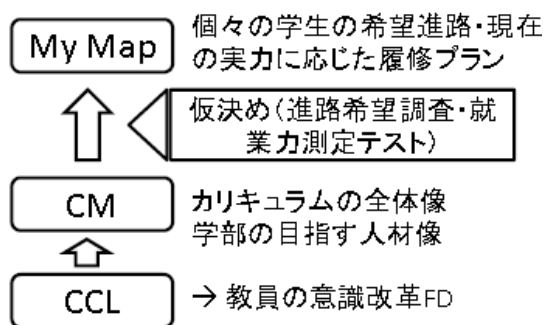
まず新生は、1年次前期にキャリアセンター主催の「キャリアデザイン研修」に参加する。これと連動する形で、基礎演習において、「4年間の学習計画」「セメスター目標」「1週間の計画」を立て、毎週「1週間の振り返り」を作成する。様々なアドバイスを教員（1回/月）および学生アシスタント（1回/週）から受けながら、目標に根ざした学

図表 I-1-(2)-1



習・生活設計の習慣を身につける。1年次後期には、「社会貢献と経済学」（取組①）を履修し、職業観・勤労観を培うとともに、社会における経済学の有用性について、具体的な事例を通して学習する。この科目では、さらに、2年次のコース選択の導入として、経済学部専門科目がどのように仕事と結びつくかを学ぶ。

図表 I-1-(2)-2



学生は2年次4月に、「進路の仮決め」

を行い、「希望進路調査・就業力測定テスト」（取組②）を受ける。特に、進路意識の低い学生にとって、一度進路の方向性を自ら選択させることは重要である。テストの結果をもとに、学生と教員（2年次後期以降の専門ゼミを担当する教員）が協同で作成するMy Map（取組③）を通して、自身の個性や能力を把握する。さらに、希望進路に必要な科目履修および能力を明確にする。2年次後期より、専門科目の核となる「演習」を履修する。なお、経済学部では、すでに教育目標に沿ったカリキュラム・チェック・リスト（CCL）およびカリキュラムマップ（CM）を作成している。取組③の一つとして、CCLとCMを就業力という観点で見直し改訂する。学部教員はキャリアセンター職員とともにワークショップを開く。これにより各教員が講義内容と到達目標に関してCCLをベースに振り返る機会となり、学部の目指す人材像および就業力育成の必要性を教員間で共有できる。

また学生は、各年次の春期・夏期休業期間を中心に、海外キャリア研修または国内・海外インターンシップ（取組④）に参加し、大学で学んだ知識が、実社会の第一線で活用されていることを体験学習する。海外キャリア研修は、約 25 時間の事前プログラムと研修後のレポートを課すものとする。これを通じて専門科目学習への目的意識がさらに深まると期待される。

学生は、3 年次前期には進路を決定する。My Map をもとに、ゼミの担当教員と相談しながら、これまで身につけてきた専門知識を検討し、これから身につけるべき知識・能力の確認を行う。その成果を活かし、3 年次後期には、自身が培ってきた能力をさらに磨いて、就職活動に備えていく。卒業時には My Map を通じて自身の学習と獲得能力の振り返りができる。ここまで企業就職を中心に説明してきたが、教員・公務員・大学院進学などの場合も同様に、この取組は実施される。

### アドバイザーによる個別面談

学生の中には、上記のシステムでも、主体的に進路を選択できないものがある。しかし、こうした学生たちこそ就職活動において、もっとも手をかけるべき層である。本学部では、基礎ゼミ担当者もしくは専門演習担当者がアドバイザーとして、大学生活で問題を抱える学生との個別面談をセメスターごとに行ってきた。面談は一人 30 分程度行い、各学生について詳細な報告書を作成している。教職員の様々な努力により、面談した学生は 2011 年度まで面談対象者の 95%に達した。今後は、この個別面談のなかでも、My Map を活用し、就業力育成のための指導・相談・助言を行う場としていく。

## I-2. 取組みの目標

### 経済学部の教育目標、ラーニング・アウトカムズ

創価大学経済学部では、1990 年代後半から積極的な教育改革に取り組み、その成果である「グローバル化時代の経済学教育」は、2007 年度から 2009 年度の特徴 G P に選定された。この中で、2008 年度に以下の 3 点の学部教育目標を掲げた。

1. 体系的な経済学教育を通して、問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する。
2. 英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。
3. 人間主義に基づく経済学教育を通して、人間を温かい目で見ることの出来る、世界に通用する人材を育成する。

さらに、この教育目標をもとに、2011 年度に以下のラーニング・アウトカムズを決定した。

1. 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる
2. 数量的・統計的データを正確に理解することができる
3. 日本・世界の経済・社会的な知識を持ち、活用することができる
4. 日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる
5. 世界の多様性、社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる
6. 自らの行動を律し、他者と協力しながら、目的を計画的に実現できる
7. 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる

### I-3. 「創価大学の就業力」の定義

一方で、今回の取組では、就業力という観点から学部が目指す人材像と対応した「創価大学の就業力」として、以下のように明確にした。

#### リテラシー

論理的思考力	複眼的な視点から、論理的に思考を展開する力
言語表現力	日本語及び外国語を用いて、明確な文章を書き話す力
数量的分析力	数量的・統計的データを正確に把握する力

#### コンピテンシー

対人基礎力	目標に向けて、他者と協力的に仕事を進める力
討議推進力	世界の多様性を理解し、建設的に議論を推進していく力
自己育成力	自らの行動を律し、理想とする自己に近づけていく力
課題設定力	客観的に情報を収集し、本質的な課題を設定する力
目標達成力	目標にそった計画を立て、具体的に実現していく力
創造的思考力	既成概念にとらわれず、独創的に考える力
環境変革力	自己の成長を通して、環境を価値的に変革していく力

これらの「創価大学の就業力」と、先に示した学部教育目標、ラーニング・アウトカムズは、以下の表が示すように明確に関連付けられている。

図表 I - 3 経済学部 Learning Outcomes と「創価大学の就業力」との対応

創価大学経済学部の教育目標	Learning Outcomes	細目	創価大学の就業力
体系的な経済学教育を通して、問題発見・解決能力と論理的思考力を備えた人材を育成する。	経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる	日常の経済問題を理解できる (B)	論理的思考力
		政策提案を理解し評価するために経済理論を用いることができる (B)	
		複数の主張を比較できる (B)	
		社会問題を複数の視点から分析できる	
		仮説・検証のプロセスを理解している (B)	
	数量的・統計的データを正確に理解することができる	数学の基礎的スキルを身につけている	数量的分析力
		社会分析での数量データの役割を理解している (B)	
		統計的な分析の結果を理解し解釈できる (B)	
		自ら統計的な分析を行える (B)	
		自らデータを集め統計的分析を行える (B)	
	日本・世界の経済・社会的な知識を持ち、活用することができる	ICT を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる (G)	課題設定力
		現代世界の社会問題について適切な知識を持っている	
		現代日本の社会問題について適切な知識を持っている	
		人類の文化・歴史について適切な知識を持っている	
		日本の文化・歴史について適切な知識を持っている	
明確な解答のある問題を解くことができる (B)			
社会現象の中に、自ら問題を発見することができる			
明確な解答のない問題を解決することができる (B)			
英語による経済学教育を通して、グローバル社会で役立つコミュニケーション力を備えた人材を育成する。	日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる	日本語で社会科学の専門書を読むことができる	言語表現力
		日本語で明確な文章を書くことができる	
		英語で社会科学の専門書を読むことができる	
		英語で明確な文章を書くことができる	
	日本語で明確なプレゼンテーションが行える	討議推進力	
			英語で明確なプレゼンテーションが行える
	世界の多様性、社会問題の多面	日本語で社会問題・経済問題をディスカッションできる	

	性を理解し、適切な議論を行うことができる	異文化を偏見のない態度で学ぶことができる	
人間主義に基づく経済学教育を通して、人間を温かい目で見ることの出来る、世界に通用する人材を育成する。	自らの行動を律し、他者と協力しながら、目的を計画的に実現できる	自らを律して行動できる (G)	自己育 成力
		自律的な学習者として、自ら課題を決めて学習を続けられる (G)	
		他者と協調・協働して行動できる (G)	対人基 礎力
		他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる (G)	
		自ら定めた課題を計画的に実行できる	目標達 成力
		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる (G)	
	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使できる (G)		
	社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる	社会で困窮する人びとの問題に関心を持ち、その解決策を冷静に考えることができる	環境変 革力
		効率性と公正の関係を理解し、よりよい社会のありかたを 考えることができる	
		建学の理念を深く理解し、世界の平和と人類の幸福のために積極的に行動できる	

細目欄の記号GとBは、カリキュラムチェックリスト作成に当たり参考にした、文科省「各専攻分野を通じて培う『学士力』」(Gと記述)、およびアメリカ・カリフォルニア大学バークレイ校のLearning Goals for Economic Majors (Bと記述)である。